



Title	翻刻『万代大雑書古今大成』（六）
Author(s)	伊藤, 孝行
Description	2017年11月29日、本稿の要旨が訂正されました。訂正された要旨は、summary(revised version)のPDFをご確認ください。 On November 29, 2017, the summary of this paper was corrected. Please check "summary (revised version)" PDF for the corrected summary.
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 19, 46-74
Issue Date	2015-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61524
Type	departmental bulletin paper
File Information	JISCHU19_04.pdf



翻刻『万代大雑書古今大成』(六)

伊藤孝行

要旨

本稿では、『万代大雑書古今大成』(読み…ばんだいおおざっしょこんたいせい)の書誌および翻刻の一部を掲げる。『万代大雑書古今大成』は天保年間に発行され、明治に入り改訂版が発行された、生活するうえで必要なことが記してある便覧である。それゆえ、古くから伝わる習慣から占星術、名付けの際の留意点等々、多岐にわたる内容となっている。

『万代大雑書古今大成』は版本であるが、管見のかぎり今のところ翻刻されていない。近代日本語資料の一として、また近代に於ける日本の習慣や風俗についての資料として、一定の価値はあろう。本稿では伊藤(二〇一四)¹⁾に続き、「ね四」より「な二」まで掲げる。

【キーワード】 近代語、翻刻、万代大雑書古今大成

Modern Japanese, Reprinting, Bandai Ozassyo Kokon

Taisei

凡例

- ・漢字の表記は、通行の字体に改めた。
- ・割注は△△で示した。割注中の改行箇所は／で示した。
- ・●は翻刻しかねた箇所である。今後の課題としたい。

ね四 年号略年代記

神皇正統 神武△七十三▽綏靖△三十三▽安寧△三十八▽懿德△三十五▽孝照△八十三▽孝安△百二▽孝靈△七十六▽孝元△五十七▽
開化△六十▽崇神△六十八▽垂仁△九十九▽景行△六十▽成務△六十一▽仲哀△九▽神功△六十九▽応神△四十五▽仁徳△八十七▽履中△六▽
反正△六▽允恭△四十二▽安康△三▽雄略△十三▽清寧△五▽顕宗△三▽仁賢△十一▽武烈△八▽継体△二十七▽安閑△二▽

宣化△四▽欽明△三十二▽敏達△十四▽用明△二▽崇峻△五▽推古△三十六▽舒
明△三▽皇極△三▽孝德△五十七▽

年号濫觴大化△五▽白雉△五▽年号断絶斉明△七▽天智△十▽年号再興

白鳳△十四▽朱雀△一▽持統△十四▽文武△四▽年号始元大宝△三▽慶雲△四▽
和銅△七▽靈龜△一▽

養老△七▽神龜△五▽天平△二十▽天平勝宝△八▽天平宝字△八▽天平神護△二
▽神護慶雲△二▽宝龜△十一▽天応△一▽延暦△二十四▽

大同△四▽弘仁△十四▽天長△十▽承和△十四▽嘉祥△三▽仁寿△三▽斉衡△三▽
天安△二▽貞觀△十八▽元慶△八▽

仁和△四▽寛平△五▽昌泰△二▽延喜△二十二▽延長△八▽泰平△七▽天慶△九▽
天徳△十▽応和△三▽康保△四▽

安和△二▽天禄△三▽天延△二▽貞元△二▽天元△五▽永観△二▽寛和△二▽永延
△二▽永祚△一▽正暦△五▽

長徳△四▽長保△五▽寛弘△八▽長和△五▽寛仁△四▽治安△三▽万寿△四▽長暦
△三▽長久△四▽寛徳△一▽

永承△七▽天喜△五▽康平△七▽治暦△四▽延久△五▽承保△二▽承暦△四▽永保
△三▽応徳△三▽寛治△七▽

嘉保△二▽永長△一▽承德△二▽康和△五▽長治△二▽嘉承△二▽天仁△二▽天永
△三▽永久△五▽元永△二▽

保安△四▽天治△二▽大治△五▽天承△一▽長承△三▽保延△六▽永治△一▽康治
△二▽天養△一▽久安△六▽

仁平△三▽久寿△二▽保元△三▽平治△一▽永暦△一▽応保△二▽長寛△二▽永万
△一▽仁安△二▽嘉応△二▽

承安△四▽安元△二▽治承△四▽養和△一▽寿永△二▽元暦△一▽文治△五▽建久
△九▽正治△一▽建仁△三▽

元久△二▽建永△一▽承元△四▽建暦△二▽建保△六▽承久△三▽貞応△二▽元仁
△一▽嘉禄△二▽安貞△二▽

寛喜△二▽貞永△一▽天福△一▽文暦△一▽嘉禎△三▽暦仁△一▽延応△一▽仁治
△三▽寛元△四▽宝治△三▽

建長△七▽康元△一▽正嘉△二▽正元△一▽文応△一▽弘長△二▽文永△十一▽建
治△三▽弘安△十▽正応△五▽

永仁△六▽正安△三▽乾元△一▽嘉元△三▽徳治△一▽延慶△三▽応長△一▽文保
△二▽元応△一▽元亨△三▽

正中△一▽嘉暦△三▽元徳△一▽元弘△一▽正慶△二▽建武△四▽延元△二▽暦応△四▽康永△三▽貞和△五▽
観応△二▽文和△四▽延文△五▽康安△二▽貞治△六▽応安△七▽永和△四▽康暦△一▽永徳△三▽至徳△三▽
嘉慶△二▽康慶△一▽明徳△四▽応永△三十▽正長△一▽永享△十二▽嘉吉△三▽文安△五▽宝徳△三▽亨徳△三▽
康正△一▽寛正△六▽文正△十八▽応仁△二▽文明△十八▽長享△二▽延徳△三▽明応△九▽文龜△三▽永正△十七▽
大永△七▽享禄△四▽天文△二十三▽弘治△三▽永禄△十二▽元龜△三▽天正△十九▽文禄△四▽慶長△十九▽元和△九▽

人皇初代神武天皇元年より今天保九年まで二千五百三十年になる也元和九年より次の寛永元につゞく左の通りなり

寛永 甲子／金 ○二条大坂の御城修ふく／○とうゑいざん立
二 乙丑／金 ○いへみつこう日光ごしや／さん○奥州山なる
三 丙寅／火 ○みかど二条おんしろへみゆき／五日ごとうりう○大ひ

でり

四 丁卯／火 ○東ゑいざんおんみや立／○大ぢしん
五 戊辰／水 ○ひでたゞ公いへみつ公日光ごしやさん○いせごせん
ぐう

六 己巳／木 ○後みづをくらゐをゆづり／給ふ○せいすいじゑん上
七 庚午／土 ○ろうやさんゑん上／○りうきう人きたる
八 辛未／土 ○せいすい寺さいこん／○諸国かんろふる
九 壬申／金 ○ひでたゞこうごたかい

十 癸酉／金 ○上登しのぶがおかにせい堂／たつ○小田原大ぢしん
十一 甲戌／火 ○いへみつ公御上らく／○京の町へぎんをたまふ
十二 乙亥／火 ○御大名かた御こうたい初／○七月天あかく火のごとし
十三 丙子／水 ○寛永通宝をゐる／○てうせん人きたる

十四 丁丑／水 ○しまばら切したんの／徒おこる

十五 戊寅／土 ○嶋ばらのぞくとごせいばつ／三万七千人ちうす

十六 己卯／土 ○なんばん舟ごてうじ／○きりしたんごせいきん

十七 庚辰／金 ○日くわう御しやさん／○うしやくびやうはやる

- 十八 辛巳／金 ○いへつな公ごたんじやう／○春夏あめふらず
- 十九 壬午／木 ○日光ごしやさん／○諸こくきゝん
- 二十 癸未／水 ○みかどくらぬゆづり／○てうせん人來へい
- 工保 甲申／水 ○けいづおんあらため／○りうきう人きたる
- 二 乙酉／水 ○あたごさんゑん上／○五条の石ばしかゝる
- 三 丙戌／土 ○明のこくせんや日本へ／加勢を乞○ぎをん堂上
- 四 丁亥／土 ○犬おふもの上らん／○つなよし公ごたんじやう
- 慶安 戊子／火 ○じげんだいしおくりな／○日光ごしやさん
- 二 己丑／火 ○りうきう人きたる／○いへつな公日光ごしやさん
- 三 庚寅／木 ○国々こう水／○去年はしかはやる
- 四 辛卯／木 ○いへみつ公ごたかい／○正せつちうやごせいばつ
- 承応 壬辰／水 ○二条ミだうゑん上
- 二 癸巳／水 ○大うちゑん上／りうきう人きたる
- 三 甲午／金 ○いんげんおしやうらいてう／みかどほうぎよ
- 明暦 乙未／金 ○てうせん人きたる／○わうばくこんりう
- 二 丙申／火 ○五しきのくもいづる
- 三 丁酉／火 ○江戸大火人多く死す／ゑこういん立
- 万治 戊戌／木 ○江戸日本ばし初てかゝる／○ミンより兵を乞あたへず
- 二 己亥／木 ○江戸りやうごくばしかゝる／○いせごせんぐう
- 三 庚子／土 ○大坂御しろらい火人おほく／死す○もりた座居たつ
- 寛文 辛丑／土 ○太うちゑん上
- 二 壬寅／金 ○二月日月くれないのごとし／○大ぢしん
- 三 癸卯／金 ○日くわう御しやさん／○じゆんしやむ
- 四 甲辰／火 ○京の大ぶつを木像に作り／なをす○絹布二丈七尺と改
- 五 乙巳／火 ○大さかおてんしゆらい火／○けんふ二丈七尺とあらた
- む
- 六 丙午／木 ○さんせいふじゆふせ家／ごきんぜい
- 七 丁未／木 ○二月堂ゑん上
- 八 戊申／土 ○諸こく大かんばつ／○さほのごとき白き西に立
- 九 己酉／土 ○糸きしんおすくひ出る／○いせごせんぐう○去年江戸
- 大火
- 十 庚戌／金 ○せつ津大風つちをふらす／大坂つなミ
- 十一 辛亥／金 ○りうきう人きたる／○去年ゑぞおこる

十二 壬子／木 ○いんげんおせうせんげ／○十一月山のつゝじミな花さ

く

延宝 癸丑／木 ○大うちゑん上

二 甲寅／水 ○諸こくこうずい／○巾一丈余のくろくも出る

三 乙卯／水 ○大きゝんにて御せぎやう／下さる○大うちゑん上

四 丙辰／土 ○両院宮ゑん上／○諸こくこうずい

五 丁巳／土 ○仙洞女院ごぞうゑい

六 戊午／火 ○とうふくもんいんほうぎよ／○ほうじやうゑさいかう

七 己未／火 ○いなばやくしかいてう

八 庚申／木 ○いへつな公ごたかい／○江戸にしミだうたつ

天和 辛酉／木 ○いせないくゑん上／○日れん四百年忌

二 壬戌／水 ○てうせん入りうきう人／きたる

三 癸亥／水 ○大こうすい／○日光大ぢしん

貞享 甲子／金 ○こよミあらたまる／○よしむね公ごたんじやう

二 乙丑／金 ○後西院ほうぎよ／○りうせい出る

三 丙寅／火 ○紀州和佐大八とをし矢／天下一

四 丁卯／火 ○くらゐゆづり／○あさくさかいてう

元禄 戊辰／木 ○ごちいんたつ／ちをんいん立

二 己巳／木 ○いせごせんぐう／○なべかづき女西国をあるく

三 庚午／土 ○はしかはやる／昌平坂にせいだう立

四 辛未／土 ○はしかはやる人多く／死す

五 壬申／金 ○大つかごこくじたつ／○しんによだうゑん上

六 癸酉／金 ○京せいぐわんじ江戸にて／かいちやう

七 甲戌／火 ○加茂あふひまつりさい／こう

八 乙亥／火 ○元の字きんぎん／を改／ゐる

九 丙子／水 ○六月信州へゆきふる／○江戸大火○きゝん

十 丁丑／水 ○ほふねん上人をゑんかう／だいしとおくりなす

十一 戊寅／土 ○永代ばしかゝる○上野中堂／るりでんなる

十二 己卯／土 ○ゑんのぎやうしや／千年忌

十三 庚辰／金 ○さがのしやかごこくじ／にてかいちやう

十四 辛巳／金 ○京大らい九十八ところ／へおつる

十五 壬午／木 ○義士四十七人ようち／○てんまんぐう八百年忌

十六 癸未／木 ○江戸大火大ぢしん

- 宝永 甲申／水 ○とね川こう水さるが／またきれる
- 二 乙酉／水 ○いせおかげまいりくん／じゆす
- 三 丙戌／土 ○林家毎月おしろにて／四書かうしやく
- 四 丁亥／土 ○ふじさん大やけ／○ほうゑいざんできる
- 五 戊子／火 ○京大火／○十文銭をゐる
- 六 己丑／火 ○ぎんざ引かへ初まる
- 七 庚寅／木 ○りうきう人きたる／ごかうさつおあらため
- 正徳 辛卯／木 ○てうせん人らいてう
- 二 壬辰／水 ○元金つうようとなる
- 三 癸巳／水 ○將軍せんげ／○しやうごいん大ミね入
- 四 甲午／金 ○りうきう人きたる／○きんぎんぐふきかへ
- 五 乙未／金 ○神祖百回御忌
- 享保 丙申／火 ○いへつぐ公ごたかい
- 二 丁酉／火 ○こうふくじ／ゑん上
- 三 戊戌／木 ○りうきう人きたる／○ふか川石ぢざうはやる
- 四 己亥／木 ○乾金やむ／○てうせん人きたる
- 五 庚子／土 ○去年聖徳たいし千年忌／○くらまやまかいてう
- 六 辛丑／土 ○御評定所へ目やす箱／いづる
- 七 壬寅／金 ○おんましたかはじまる／○あさくさかいてう
- 八 癸卯／金 ○人丸千ねんき／○こいしかハおやくゑんたつ
- 九 甲辰／火 ○江戸大火しばぐち御門／やける
- 十 乙巳／火 ○こがねばらおしゝがり／○本所五百らかん入ぶつ
- 十一 丙午／水 ○またこがねばら／おしゝがり
- 十二 丁未／水 ○初てきしや上らん／○大すきまつりはやる
- 十三 戊申／土 ○日光ごしやさん／○九月こう水りやうごくばしおつる
- 十四 己酉／土 ○こうちこくとり大ぞう／をけんず
- 十五 庚戌／金 ○あかさか氷川ところがへ／○はしかはやる
- 十六 辛亥／金 ○かんろふる○江戸大火／日蓮四百五十年忌
- 十七 壬子／木 ○西国作物にうんかつく
- 十八 癸丑／木 ○夏秋諸国風邪はやる／○おほりはらへ
- 十九 甲寅／水 ○こうばうだいし九百年忌／○たかをかいてう
- 二十 乙卯／水 ○犬のやまひはやる／○ふないたのミやうがうかいてう

- 元文 丙辰／土 ○いへはるこうごたん生／○もんじきんをゐる
- 二 丁巳／土 ○京江戸にて新銭をゐる
- 三 戊午／火 ○十一月大しやうゑ
- 四 己未／火 ○秋大坂大らい人多く死す
- 五 庚申／木 ○ぜんくわうじ如来江戸／にてかいちやう
- 寛保 辛酉／木 ○かまくら八まん江戸にて／かいてう
- 二 壬戌／水 ○もくぞのうまる／○くわんとう大ミづ
- 三 癸亥／水 ○天王寺のしやうとくたいし／江戸にてかいてう
- 延享 甲子／金 ○諸国風邪大にはやる
- 二 乙丑／金 ○日光のミや上法／○いへしげ公しやうぐんせんげ
- 三 丙寅／火 ○法家の御朱印改ため／○江戸大火
- 四 丁卯／火 ○相州甲州大風／○しよこくかぜはやる
- 寛延 戊辰／木 ○てうせん人りうきう／人らいてう
- 二 己巳／木 ○いせごせんぐう／○江戸こうすい
- 三 庚午／土 ○さくらまちほうぎよ／○くはんぜ一代能こうぎやう
- 宝暦 辛未／土 ○よしむね公ごたかい
- 二 壬申／金 ○天まんぐう八百五十年忌／○りうきう人きたる
- 三 癸酉／金 ○はしかはやり人おほく／死す
- 四 甲戌／火 ○こよミ御改／木曾川さらへ
- 五 乙亥／火 ○秋五畿内こう水／ゑかういんにて十万八千人百年忌
- 六 丙子／水 ○江戸大火／○去年九州大かぜ
- 七 丁丑／水 ○しやうごいん大ミね入／○中ごくすちこう水
- 八 戊寅／土 ○かしま本地仏江戸にて／かいてう
- 九 己卯／土 ○ふかがハれいかんいんたつ／○か賀大火
- 十 庚辰／金 ○いへはる公將軍せんげ／○江戸大火
- 十一 辛巳／金 ○いへしげ公ごたかい／○ゑんくわう大師五百五十年忌
- 十二 壬午／木 ○ミかどほうぎよ／○いへもと公たんじやう
- 十三 癸未／水 ○てうせん人らいてう／○大さか大火
- 明和 甲申／水 ○りうきう人きたる
- 二 乙酉／水 ○五匁銀をいる／○日光御神忌万部
- 三 丙戌／土 ○くわんとうこう水／○かだあハしま江戸にてかいてう
- 四 丁亥／土 ○尾州三州こう水／くわんとう川々御ふしん

- 五 戊子／火 ○四文銭はじまる／太子立
- 六 己丑／火 ○いせごせんぐう／○あさくさかいてう
- 七 庚寅／木 ○大ひでり／○さかのしやかえどにてかいてう
- 八 辛卯／木 ○大かんばつ／○いせおかげまいりやる
- 安永 壬辰／水 ○江戸大火人多く死す／○なんりやうぎんをゐる
- 二 癸巳／水 ○ゑきれいはやる人參／をくださる
- 三 甲午／金 ○諸こく大風／○大川ばしかゝる
- 四 乙未／金 ○清水ちゝふ札所江戸／にてかいてう
- 五 丙申／火 ○日光ごしやさん／○はしかはやる
- 六 丁酉／火 ○とうごくこうすい／ミのぶさんかいてう
- 七 戊戌／木 ○らく中こうすい／○江戸大火
- 八 己亥／木 ○諸こくはいふる／○いへもと公ごたかい
- 九 庚子／土 ○らかん寺さゝぬだうたつ／○きんぎんぐ星いづる
- 天明 辛丑／土 ○くハんとうこう水／○日蓮五百年忌
- 二 壬寅／金 ○くわんとう太ちしん／○かまくら八まん江戸にてかいてう
- 三 癸卯／金 ○あさやま大やけ東国／砂ふる○諸国大きゝん
- 四 甲辰／火 ○去年より午としまで関東／大きゝんおすくひくださる
- 五 乙巳／火 ○さかのしやか江戸にて／かいてう
- 六 丙午／水 ○いへはるこうごたかい／○しよこくこう水
- 七 丁未／水 ○大きゝんおすくひ米／くださる
- 八 戊申／土 ○大うちゑん上
- 寛政 己酉／土 ○いせごせんぐう
- 二 庚戌／金 ○りうきう人きたる／○大うち御ざうゑい
- 三 辛亥／金 ○あさくさかいてう／○九月大かぜこう水
- 四 壬子／木 ○ひぜんしまばら山やけ／人馬多く死す
- 五 癸丑／木 ○家慶公ごたん生／○つきぢミだうたつ
- 六 甲寅／水 ○川口ぜんくわうじいはふね／ぢざうかいてう
- 七 乙卯／水 ○こがねばらおしゝがり／○あさくさらいじんもんたつ
- 八 丙辰／土 ○せんがくじぎしかいてう／○りうきう人きたる
- 九 丁巳／土 ○こよミ御あらためあり／○両こくばしかけかへ
- 十 戊午／火 ○京大ぶつらい火／品川へくじら上る
- 十一 己未／火 ○ゑんのぎやうじや千百／年忌○せいだうございこん

十二 庚申／木 ○ふじさんへ女人のぼる／○あたご山火
享和 辛酉／木 ○てんわうじらい火／○さがのしやか江戸にてかいてう
二 壬戌／水 ○天まんぐう九百年忌／○諸こく風邪大はやり
三 癸亥／水 ○はしかはやる／○去年しよこくこう水
文化 甲子／金 ○出羽大ぢしん山くづれ／人馬多く死す
二 乙丑／金 ○ゑかういん十万八千人百五十／年忌
三 丙寅／火 ○三月江戸大火／○りうきう人きたる
四 丁卯／火 ○八月永代ばしおち人多／死す○は、きばしいづる
五 戊辰／木 ○日本ばし京ばし永代ばし／かゝる
六 己巳／木 ○永代ばし新大ばし／大川ばし等のはしせんやむ
七 庚午／土 ○すみよし正せんぐう／○さがのしやか江戸にてかいて
う

八 辛未／土 ○ゑんかう大し六百年忌／○しんらん上人五百五十年忌
九 壬申／金 ○くはんとうぢしん／○去年てうせん人つしまへきたる
十 癸酉／金 ○八わたりんじまつり／はじまる
十一 甲戌／火 ○てんわうじさいこう／○あさくさかいてう
十二 乙亥／火 ○東照宮二百回御神忌／日光山にてちよくゑ
十三 丙子／水 ○くわんとう御てんにん／御けんにん
十四 丁丑／水 ○三月ごそくゐ／○三月京大あられ
文政 戊寅／土 ○四月二分金通用／はじまる
二 己卯／土 ○天わうじかいてう／○小判一分ばん吹かへ
三 庚辰／金 ○夏ながあめ／○きんぎんぐふきかへ
四 辛巳／金 ○諸国風はやる／○くはんとうひでり

五 壬午／木 ○おらんだよりらくだ／わたる
六 癸未／木 ○八月大あらし／十一月東本願寺炎上
七 甲申／水 ○一朱金はじまる／○はしかはやる
八 乙酉／水 ○去年二朱銀吹かへ
九 丙戌／土 ○諸国大豊年
十 丁亥／土 ○道とんぼり大火／○おくハマつりはやる
十一 戊子／火 ○八月九州大かぜ大こう／すい
十二 己丑／火 ○江戸大火／○一朱銀はじまる
天保 庚寅／木 ○いせおかげまいりはやる／京ぢしん

- 二 辛卯／木 ○大坂川さらへ／○天保山できる
三 壬辰／水 ○りうきう人きたる／○二朱金はじまる
四 癸巳／水 ○諸こくき、んおすくひ／いづる○明年江戸大火
五 甲午／金 ○こうほう大師千年忌／○東本願寺たつ
六 乙未／金 ○ごぢいんがはらにてかたき／うち○百文銭はじまる
七 丙申／火 ○巳年より明年にて五ケ年／の間大き、ん人多く死す
八 丁酉／火 ○大坂大火／○五両判通用はじまる
九 戊戌／木 ○去年秋諸国豊作
十 己亥／木
庚子／土
辛丑／土
壬寅／金
癸卯／金

ね五 鼠の穴をふさぐ法

正月上の辰の日十二月かのえとらの日ミづのえたつの日又暦の中段ミつといへる日鼠の穴をふさげバ鼠来らず又三月庚午の日鼠の尾を切て血をとり梁にぬる時は来らず又清明の日戌の方の土を把て犬の毛と交へ煎じ汁を以泥となし鼠の通ふ道にぬり又ねづミの穴にぬりふさぐ時ハ鼠蛇其外虫来らず

ね六 年中日々曆中段を知る事

閑とづ	開ひらく	納おさん	成なる	危あやふ	破やぶる	取とる	定さだん	平たいら	満みつ	除のぞく	建たつ	
丑	子	亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	月正
寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	月二
卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	月三
辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未	午	巳	月四
巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未	午	月五
午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未	月六
未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	月七
申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	月八
酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	月九
戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	月十
亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	月十一
子	亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	月十二

な一流星

按るに流星ハ星の如くにして

白く其跡に白き筋を引故星

と号といへ共元星にあらず中天

にある処の天火のたぐひ也万宝全

書に曰流星東より西にうつれば

明日雨東より南にうつれば明日必ず

日和よし東より北にうつれば七日の

うちにさハがしき事あり南より

東にうつればひでりを主どる

南より北にうつれば明日霧

西より東にうつれば二日のうち

に風をつかさとる西より南にうつ

れば其年水難旱損のうれひ甚

しかるべし西より北にうつれバ明日風雨

きびしきしるし也北より東にうつれば

明日くもりて雨なしこれ故人の

考ふる処といへ共唐土の事は

しかと合ず本朝にてハ流星ハ

旱年に多く流星ある夜は

明日かならず日和よし

な二 男女一代八卦上段の生れの部ハ延享元年甲子より六十ノ年の間上元の生れ也▽

【表略】

一代八卦上中下段の事

上元中元下元この三の年代を考ふべき事

右の通り也六十年を一元といふなり

上元の産れハ永禄七年甲子よりはじまれり

元和元年癸亥まで六十年の間なり

中元の産れハ寛永元年甲子よりはじまれり

天和三年癸亥まで六十年の間なり

下元の産れハ貞享元年甲子よりはじまれり

寛保三年癸亥まで六十年の間なり

上元の産れハ延享元年甲子より初まれり

享和三年癸亥まで六十年の間なり

中元の産れハ文化元年甲子よりはじまれり

已後六十年の間癸亥とし迄中元中段なり

右一元六十年上中下合て三六百八十年にて一周来と云也

如斯此三段ハ次第くゝにいつまでも上り返し繰べし然バ下段

六十年過て又元の上段へくり戻すときハ上段なれども

下段のとしのうち子生れたる人をバいつ迄も下段の卦よりかぞへ

初べし上段の生れの人中段にても又長命なれバ下段にもある

也以下如斯心得占ふべし故に上男中男下男上女中女下女

と云事ありたとへバ上段の男をバ離の卦より一とかぞへ初

る也下段の生れの男をバ巽の卦より一とかぞへはじむる也

又上段の生れの女をバ坎の卦より一とかぞへははじめ中段

の生れの女をバ乾の卦より一とかぞへはじめ下段のうまれの

女をバ震の卦より一とかぞへはじむべし

八卦順逆めぐりの事

男ハエ順といふ事ハ甲丙戊庚壬の子寅辰午申戌のとしの男ハミな順にかぞへ廻るべし順とハ左より右へ弓引に向より前へかぞへまハすを順と云也

男ハト逆と云ハ乙丁己辛癸の丑卯巳未酉亥のとしに当るおとこハミな逆にかぞへ廻るべし逆とハ右の方より左のかたへ茶磨まハしに向ひより前へかぞへまハすを逆と云也

女ハト順と云ハ乙丁己辛癸の丑卯巳未酉亥のとしの女ハ順にかぞへるなり

女ハエ逆と云ハ甲丙戊庚壬の子寅辰午申戌のとしのをんなハ逆にかぞへめくるべし

八卦かぞへやうの事

初八を越て四十一おどり四十八を越八十一をおどり八十八をこへて百一をおどると云事ハたとへバ上段の生れの男エ順にハ離の卦をととかぞへはじめ坤の卦を二とかぞへ兌の卦をバ三とかぞへ乾の卦を四とかぞへ坎を五艮を六震を七巽を八とかぞふべきを一ツ飛して本の初によりみし離の卦を八と飛越故に初八をこゆるとハ云也扱初一ツとかぞへ初たる離の卦を八とかぞへ坤の

卦を九兌を十とかぞへのばし次第にかぞへ扱離の卦へ四十と

かぞへ又今一度離の卦を四十一とかぞへる也是を四十一おどるといふ也夫より坤の卦を四十二兌を四十三とし乾を四十四坎を四十五とし艮を

四十六震を四十七とかぞへ巽を飛越て離を四十八とかぞふるゆへ四十八をこゆると云次の坤の卦を四十九兌を五十とかぞへ乾を飛

越て坎を六十とかぞへ又艮を飛越て震を七十とかぞへ巽の卦を飛越て離を八十とかぞへ則其離を八十一とかぞふる

によつて八十一おどると云也次の坤の卦を八十二兌を八十三とかぞへ乾を八十四坎を八十五艮八十六震八十七巽の卦飛越て

離の卦を八十八とかぞふるゆへに八十八をこゆると云次の坤の卦八十九とかぞへ兌を九十とかぞへ乾を飛こして坎を百と

かぞへ今一たび坎の卦を百一とかぞふる故に准じて繰べし

次にくりやうの図を出す見合すべし

離 上男 上段の生れの男ハ離の／卦よりくり初る也ト逆ハ／右より左へ
ぎやくにくる也

坤 陰女

兌 下男 下段の生れの男ハ兌順にハ兌の卦より右へ順に／くるなりト逆
にハ左へぎやくにくるべし

乾 中女 中段の生れの女ハ兌逆にハ／乾の卦より左へぎやくに／くるべ
し／ト順にハ右へ順にかそふる／なり

坎 上女 上段の生れの女ハ／兌逆にハ乾の卦より／左へぎやくにくるべ
し／ト順にハ右へ順にくるべし

艮 陽男

震 下女 下段の生れの女ハ兌逆にハ／震の卦より左へぎやくに／くるべ
し／ト順にハ右へ順にくるべし

【図略】

上元中元下元くりやうの事

前にもしるせし如く延享元年きのえね

より上段の生れなりたとへバ上段のおとこ子の

としの生れにて

一才 八才 十六才 二十四才 三十二才 四十才

四十一才 四十八才 五十六才 六十四才 七十二才

右のとしハ離中断に当るなり又寅のとしの男は

二才 九才 十七才 二十五才 三十三才 四十二才

四十九才 五十七才 六十五才 七十三才

右の年ハ坤皆断に当る也上段の女子年の生れならバ

五才 十二才 二十才 二十八才 三十六才 四十五才

五十二才 六十才 六十六才 七十六才

右ハ離中断なり余ハこれになぞらへ口の図に引合せ

てしるべし

離／中／断

勢／至／菩／薩

むま／二十三日

つかひ日／たつミむま／ひつじさる

きらひ日／うしとらう／とりいぬゐ

吉方　／南　たつミ／東西

あしき方／北　うしとらゐ／ひつじさるいぬ

此卦にあたるとしハ位高き人につきしたがふて／よし目上の人こそむくハ
あし、本番禍なる故に離兌巽の三卦ハ大事の卦なり万慎ミてよし若不信心
／なれば親子兄弟わかる、事あるべし或ハ主君にはなる、か住処にはな
る、事有なり木性土性は／相生ゆへよし火性ハ殊更よし水性金性の人ハ悪
し／商ひハ半吉なり出家ハ寺塔の志と、なふべし海河慎べし

艮

正月／十二月

禍／害

此月ハ禍害にあたるゆへ万刀初かなものなど／買もとむることをいむべし
又牛馬の売買／すべからず竹木をきる事忌べし右の／しなをつゝしめバよ
ろづよし

震

二月

生／家

二月ハ木の番なり生家にてよろづよし／住所さだまるべし女ハゑんづき
とゝなふべし／出家ハてらをもつべししかれども男色につきておもひごと
あるべし

巽

三月／四月

福／徳

三月四月ハ福德にてよし旅をして／得あり女ハはらむことあるべしもし又
／あやしきことありともくるしからず家内へ蛇／きたる事あり必ずよし但
しゆもつの病慎べし

離

五月

遊／年

此月ハ火なるゆへに土性木性の人ハよし水性金性／の人ハわろし主人また

ハ親兄師匠など、不／和になりて住所をはなる、ことあるべし又／さいしにつきてくらうあるべし

坤

六月／七月

遊／魂

六七月ハ住所につきくらうあるべし百姓は／たねものをそこなふべし又田地に付公事／ざたあるべし女ハかほにくさいできて煩ふ／べし但金火性ハさハリなし

兌

八月

天／医

此月にあたれバ武士ハ名作の刀を得べし／出家ハ經卷書物を得べし女ハ兩道のこゝろを／つゝしむべしかならず変事あるべし水性／土性の人ハ殊によし

乾

九月／十月

絶／命

此兩月ハ俗ハ主よりゆづりをうるなり／出家ハ師匠のゆづりを得べしわかきをんなの／はらむことあり木性土性ハ絶命なれども／のぞミことかなふべし

坎

十一月

絶／体

絶体ハ水にあたる妻子に大事あり女ハなん／ざんの恐れあるべし又はらむ月なりすべて／海川をつゝしむべし金性土性ハ相生ゆへ／わざハひなかるべし

坤／皆／断

大／日／如／来

ひつじさる／二十八日

つかひ日／うしとらむま／ひつじさるとり

きらひ日／いぬぬね／うたつミ

吉方 にし大吉／丑寅未申／午半よし

悪方 北 ひがし／いぬゐたつミ／半よし

此卦にあたるとしハ万事他人にしたがひてよし／おごる心あればあし、此卦土なるゆへに水性木／性の人ハわろし金火土ハよし五性共に兄弟／に下人につきてくぜつあるべしまた妻子に

つきてくらうする年なりあきなひこと半よし／なり坤ハ地なるゆへ万物をやしなひてしたがふ／心あればよし奉公人ハ主人につきふ足の心あり／とも申出すべからず此年ハふかく信心すべし

艮

正月／十二月

生／家

土の番にして金銀金道具等をうしなふ事／あるべし又住所につきくらうあるべし信／心してよしもし不信心なれば家をうし／なふべし

震

二月

禍／害

此月ハわざハひ木にありやしきのうちの樹木かるゝこと有べし出家ハ寺につきくぜつごと／あるべしつゝしむべし

巽

三月／四月

天／医

三月四月ハ女ハはらむ月なり男女ともくぜつ／ありて家をいづることあるべしつゝしむべし／又こんれいハとゝなふ月なり

離

九月

遊／魂

男女とも此月ハ心にたがふことあるべし又／気のちがふ事もあるべし物じてむつかしき／事を聞べし小児ハけがつゝしむべし

坤

六月／七月

遊／年

土の番にして水性木性の人ハよし金性火性の／人ハわろし住所をいづる事あるべし又妻を求／べし奉公仕官の人ハかぞうを得べし

兌

八月

福／徳

金の番にして衣類糸をもとむるか又金銀袋／などを得るなり百姓ハ田地につき公事さた有／べしすべてのぞみごとなふ月なり

乾

九月／十月

絶／体

水の番にして金性木性の人ハよし火性土性の人／ハよろしからず親にはなる、事有べし衣類などを／失ふか又死靈狐のわざハひ有べし信心してよし

坎

十一月

絶／命

水の番にして木性金性の人ハよし住所を求る／ことあるべし北の方にあたつて井をほれば／富貴の身となるべし

兌／上／断

不／動／尊

とり／二十八日

つかひ日／むまひつじさる／とりいぬゐ

きらひ日／ねうしとら／うたつミ

よき方／ひつじさる大吉／西南いぬゐ

あしき方／うしとら／たつミ／北

此卦にあたる年ハ悦びあるとし也何事をのぞミてもよし／位高き事望ミてよし然ども離兌巽の三ツとて大事／の卦也慈悲善根をなしてよし本番金なるゆへ水性／土性ハよし木性火性ハわろし家屋敷につきて公／事さたを云こと有べし堪忍すべし五性ともに／妻子につきくらうあり但刀脇差を求てよし其／外よろづつゝしミてよし尤何事も此方より云出／す事あしゝ口論あらそひ出来たがるとし也／心得て諸事ひかへてよし

艮

正月／十二月

絶／体

土の番なれば金性火性ハよし絶体なれども事／によるべし水性木性わろし
喧嘩口論公事／沙汰つゝしむべし衣類を失ふ事有然ども運ハよし

震

二月

絶／命

木の番にして諸事じやうじゆする月也水性火性／殊によしそせうのぞミ事
かなふべし出家／ハとりわけてよろし

巽

三月／四月

遊／魂

水の番にして木性金性の人ハよし火性土性の／人ハあしゝ病事あるべし旅
へ出て一しほ大事／なり万心しづまりてよし信心すべし

離

五月

天／医

火の番にて木性火性ハよし水土性ハあしゝ／親類に病人有べししかし大病
ならず思ハざる／酒食にあふ月なるべし

坤

六月／七月

福／徳

土の番にして火性金性ハ殊更よし酒食に足て／富貴なる月なりよろづさい
ハひあり但し／神のとがめあり慎むべし

兌

八月

遊／年

金の番にして土水性ハよしよき妻をもとめ／又よき下人をかゝゆべし但し
下人につきくぜつ／あり女につききづかひわづらひあるべし

乾

九月／十月

生／家

金の番にして万事大事なり奉公人ハ主人より／おんしやうにあひ其外諸人
ともにさいハひある／月なり女ハはらむべし

坎

十一月

禍／害

水の番にして木金性ハよし住処につき／よき事あり子に付ちかひをたつる
事有べし／女ハ月の難有盜賊のなん心得べし

乾／皆／連

八／幡／大／菩／薩

いぬゐ／十五日

つかひ日／うしとらう／とりいぬゐ

さらひ日／ねたつミ／むまひつじさる

よき方／うしとらう／とりいぬゐ

あしき方／北南たつ／ミひつじさる

此卦にあたる年ハ心正直なれば取分天の加護あり／乾ハ健にしてつよくす
こやかなりといへどもおごる心有／バわろし金の番なれば水性土性ハよし
金性半吉也商／半吉也貴人より禄を得年也人に物を施てよし火性木性／ハ
さいし又ハ下人につきくらうあるべし

艮

正月／十二月

福／徳

此月ハ土の番にして金火性ハ殊によし何事にも／仕合よき有也望事叶ひ福
徳心のまゝにきたると／いへどもおごる心あればものをうしなふ

震

二月

天／医

木の番にして水火性ハよし出家ハ寺を／もつべし女ハはらむ事あるべしし
かしふた／子の恐れあり神仏をまつりてよし

巽

三月／四月

禍／害

水の番にして木性金性ハよししかれども／海川舟馬の上を慎べし旅へいづること悪し／病事あるべし

離

五月

絶／命

火の番なるゆへ土性木性火性ハよし金性／水性ハわるしさいしにはなる、か煩らふ事／あるべし又衣類をやくかすべてあしき月也

坤

六月／七月

絶／体

土の番なるゆへ金性火性ハよき事もあり／農人ハ田地につきてこうろん有べし住所／に付公事ざた有べし万つゝしむべし

兌

八月

生／家

金の番にして水性土性ハとりわけよし／家を求る事有其外望事叶ふ奉公人ハ妻／を求め加増を得べし又心ひがむ事有べし

乾

九月

遊／年

火の番にして木土火性ハよし奉公人ハ心持正／からざれば浪人する事有又心持正しくハよき／主取すべし但病氣の恐あるべし

坎

十月／十一月

遊／魂

水の番にて金土性ハよし海河を慎べし／妻子にわづらひあり住所かハるか盗人の／なん有べし信心すべし

坎／中／連

千／手／観／音

ね／十七日

つかひ日／ねうしとら／うたつミ

きらひ日／むまひつじさる／とりいぬぬ

よき方／う大吉たつ／ミねうし／とら
あしき方／むまひつじさる／とりいぬゐ

此卦にあたるとしハ五性ともに大事の年也よく／慎ミ万／僞心あるべからず

位有人ハ位さがり身上よき人もおと／ろふる年也信心して慎バ望ミ事叶べし貴人より恵を請る事あり商事よし此卦水なる故土性火性惡し／木性金性の人ハよし水性もよし併海川の難慎むべし

艮

正月／十二月

天／医

此月ハ土の番にて金性火性ハよし水性木性ハ／惡し土ハ半吉也諸人にしらるゝ事有酒食集る／又煩ふ事あり又道具をうしなふ事有べし

震

二月

福／徳

木の番也火性水性ハ殊によし万福有べし／女ハはらむ也出家ハ寺をもつべし望事ハ／かなふ月なり信心してよし

巽

三月／四月

生／家

木の番にて火性水性ハ大によし旅をする／こゝろありゆきてよし又家をやる事／あり女ハわづらひをつゝしむべし

離

五月

絶／体

火の番にして土性木性ハくるしからず水性金性／ハあしく衣類をやくか火災にあふかもしくハ／やけどする事有べし随分火を大切にすべし

坤

六月／七月

絶／命

土の番にして火性金性ハ絶命なれともよし／住所をもとむる事ありさりながら喧／嘩ころんを慎べし其外さハリあり

兌

八月

禍／害

金の番にして水性土性ハ少しよし火性木／性悪しなべかまをわる事有べし
又かなものを／求べからず其外家内に付くぜつを慎べし

乾

九月／十月

遊／魂

火の番にして土性木性ハよし水性金性ハ悪し／盗人にあふこと有べし用心
すべしまたハ／病難のきたる事あるべし

坎

十一月

遊／年

水の番にて金性木性ハよし火性土性ハ／あし、奉公人ハ浪人する事有べし
住処／かハる事あるべし

艮／上／連

虚／空／藏／菩薩

うしとら／十三日

つかひ日／うしとらひつじ／さるいぬゐ

きらひ日／たつミウ／とりむまね

吉方／うしとらさる／ひつじいぬゐ

あしき方／たつミウ／むまね

此卦の本番生家にて五性とも利得ある年也然共親／兄弟に付てくらうする
事有べしおごらされバ仕合よし／すべて失物の用心すべし何事も気をせく
べからず物事／十分にすべからず妻をむかへ又家屋鋪をもとめ又は／家督
を受ける事有べし然し多欲をふかく慎べし

艮

正月／十二月

遊／年

土の番にして火性金性ハよし我より目高／人の氣に入て仕合よし油断すべ
からず失物を／用心すべし望事ハおそくしてもかなふなり

震

二月

遊／魂

木の番にして水性火性ハよし男女ともに／こんれひの沙汰あるべしいんよくハ慎べし／油断あらバ公事ざた盗難つゝしむべし

巽

三月／四月

絶／命

水の番にて金性木性ハよし水性わろし頓死／する事有養生してよし又人と妻を／あらそふ事有何れ難有付き也用心すべし

離

五月

禍／害

火の番にして木土性ハよし水金性ハわろし／火難の恐を慎用心すべし又子のわづらふ／事あるべし信心してよし

坤

六月／七月

生／家

土の番にして金火性ハよし土性もよし水木性／ハわろし子と不和に成か又ハ親子わかるゝ／こと有べし衣類をうしなふ事も有べし

兌

八月

絶／体

金の番にして水土性ハくるしからず火木性ハ／わろし失物女難のうれひあり慎べししかし／力となる人多かるべし

乾

九月／十月

天／医

水の番にして木金性ハよし火土性ハわろし／住処のかはる事あるべし女ハはらむ月なり／男女とも二心いでくる事有べし慎べし

坎

十一月

福／徳

金の番にして水土性の人ハ大によし奉公人ハ主／人の氣に入べし諸事望事
叶ふべししかし／俵物をぬすまるゝかしゆもつを煩ふべし

震／下／連

文／殊／菩／薩

う／二十五日

つかひ日／うむまる／いぬね

きらひ日／たつミひつじ／さるとらうし

よき方／いぬゐよし／むまう半吉

あしき方／うしとら／たつミ／ひつじさる

此卦にあたる年ハ身上よく成住所きハまり万事望ミ／かなひ威勢有て名高
く諸人にうやまハれ仕合よき／年なり併商売替べからず神仏を信心すれば
諸願成就／すべし火性水性ハよし木性もよし奉公人は身上かハリ／商売筋
に付公事ざた有べしふかく慎べし

艮

正月／十二月

遊／魂

土の番にして火金性ハよし木水性ハわろし／ぬす人にあふ事あるべしいん
よくを慎べし

また／しゆもつをわつらふ事有べし慎べし

震

二月

遊／年

木の番にして火水性よし木性ハ半よしなり／その余ハわろし此月にあたり
よろづつゝしミ／てよし諸事よき事多き月なる故なり

巽

三月／四月

絶／体

水の番にて金木性ハよし火性ハわろし武士ハ／あやうき事有べし旅をして
わろし舟川／を慎むべし盗なん用心すべし

離

五月

生／家

火の番にして火土木性ハよし水金性ハ悪し／けんくハこうろん火災をつゝ
しむべし親兄弟／につき心づかひなる事出来るべし

坤

六月／七月

禍／害

土の番にして火金性ハよし木水性ハわろし／住所につきあらそひ有べし武
士ハ手がらを／して名を顯す月なり信心して万よし

兌

八月

絶／命

金の番にして水土性ハよし火木性ハわろし／出家ハ經書物を得俗ハたから
を得武士ハよき／名作のかたなを得る也しかし病の氣遣あり

乾

九月／十月

天／医

金の番にて五性ともに前に同じ病氣の／さハリ多ししかれともやうじやう
をなさバ／本ぶくもはやかるべし信心すべし

坎

十一月

福／徳

水の番にして木金性ハ殊によし住処を出る／ことあり妻子につきくらうあ
るべし又ハ／美妻をもとむること有べし

巽／下／段

普／賢／菩／薩

たつミ／二十四日

つかひ日／たつミむま／ひつじさるね

きらひ日／うしとらう／とりいぬゐ

よき方／たつミむま／ひつじさるね

あしき方／うしとらう／とりいぬゐ

此卦にあたる年ハ住処にはなるゝか病の愁有べし／離兌巽の三の内なれば
大事也万ひかへめにしてよし／奉公人ハ主人へ忠節の心あつければ加増を

得る年也／不奉公なれば身をうしなふ也此卦水なるゆへ木金性ハ／よし火土性ハわろし商ひ事よし信心して随意なるべし

艮

正月／十二月

絶／命

土の番にして火金性ハよし水木性ハわろし／剣難を慎べしうせ物心得てよし損有月／なりたゞし書物を求る月なり

震

二月

絶／体

木の番にして火水性よし其余はわろし／下人に縄をかくる事有べし又庭木枯る／事有べし万事愁事有べし慎べし

巽

三月／四月

遊／年

水の番にて木金性ハよし土火性ハわろし／水性よし入智となるか人の家督となる事／有しかししたしき者にも敵となる事有べし

離

五月

福／徳

火の番にて土木性よし水金性わろし万事／損失多し火難を慎べしのぞミ事ハ叶ふ／月なれば心を正しくまもるべし

坤

六月／七月

天／医

土の番にて火金性ハよし水木性ハわろし／ふくちうをわづらふ事有べし又住処をやぶる／事有又もとむる幸も有て損徳まち／也

兌

八月

遊／魂

金の番にて水土性よし火木性ハわろし／万事のぞミ事ハ叶べしなるほどよき／月なりしかし盗人の用心すべし

乾

九月／十月

禍／害

金の番にて水土性よし外ハ前におなじ／けんくわこうろんをつゝしむべし
殊さら／いぬぬのかたのくぜつをつゝしむべし

坎

十一月

生／家

水の番にて木金性ハよし土火性ハあしゝ／盗人にあふか人にだまさるゝ事
有べし衣類／など分而ふんしつ用心すべし

注

1)伊藤孝行(二〇一四)翻刻『万代大雑書古今大成』(五)、「北海道大学留
学生センター紀要」十八、一一〇―一二六頁

Reprinting: “Bandai Ozassyo Kokon Taisei” (6)

ITO Takayuki

This paper presents a part of the book entitled “Bandai Ozassyo Kokon Taisei”, which was first issued in the Tenpo Period (1837–1858), rewritten in present-day Japanese [characters]. It is a guide book describing the particulars of daily life at the time. It ranges widely over many themes, from traditional customs and astrology, to the points to note in naming children. Although “Bandai Ozassyo Kokon Taisei” is a printed book, and has had a revised edition issued in the Meiji period, it has not been translated into modern characters before, to the author's knowledge. As one of the sources of modern Japanese and also as a material describing Japanese manners and customs of the past, it is of indisputable value. An abstract from the book, together with the title, colophon and preface, are reproduced here.